

[通常機体]ハ M/R 「MS90'S」

バーザム

機体名	バーザム	画像	画像 2
型式番号	MSA-008/RGM-87	MJ 1988.8/109	ギム G 氏背面画 & 作例
英語名	BR-GM		
所属	エウーゴ(カラバ)連邦軍		
パイロット			
装甲材質			
装備	ビームライフルビームサーベル		
作品名	機動戦士ガンダム DOUBLE-FAKESD ガンダム G ジェネレーション		
参考書籍	MJ 1988.8/109SD ガンダム G ジェネレーション FEB 開発戦争編		

内容

G ジェネ F

連邦軍の汎用試作型 MS。

バーザムの発展改良型で、ジム系 MS とパーツの互換性を持たせた機体である。
エウーゴ向けに開発されたため「MSA」の型式番号が与えられている。

MJ 1988/08 Vol.109 MS'90s

最後に、オマケの「バーザム」です。

エウーゴ(カラバ)仕様として製作され、後に、連邦軍制式採用となったタイプ。
デザインを、より GM 系のテリトリーに近づけてみました。

EB 開発戦争編

エウーゴ仕様として製作されたバーザムの発展型。

ギム G 氏考察「かりそめの RGM ナンバー」

「GM(ジム)」の銘を冠する MS は、地球連邦軍(E.F.F.)の制式主力 MS として 一年戦争 から 第2次ネオ・ジオン抗争 まで、長きに亘りその座を守ってきた。

シリーズの最後となったのはRGM-86(R/G)「ジム III」であり、以後RGMナンバーはRGM-89「ジェガン」に引き継がれていく事になる。

だが、RGM-86「ジム III」がロール・アウトして実戦配備に至るまでの僅かな期間、E.F.F. が暫定的に制式 MS として採用した RGM ナンバーあった。

それが RGM-87「バーザム (Br-GM)」だ。

RGM-86「ジム III」は、「GM」タイプの再活用を企図した E.F.F. が立案した【GMIII 計画】によって開発された(1)。

同機は旧式化していた RGM-79R(2)「ジムII」の各部のパーツを交換し、U.C.0080 年代後半の第 2 世代 MS に準じた性能に向上させた機体である。

U.C.0087 年末期より順次「ジムII」からの改装が開始され、E.F.F. の制式主力 MS として前線に配備される予定だった。

しかし開発と改装の遅延、何より グリプス戦役 時の混乱によって配備転換が遅れ、実戦配備はロール・アウトから約半年後の U.C.0088 年 5 月までズレ込む事となってしまったのである。その空白を埋めるため、既存の MS 製造ラインから「GM」タイプに転用できる機体が求められる事となった。

その結果として誕生したのが「バーザム」である。

「バーザム」は、地球連邦軍治安維持部隊「ティターンズ」の制式主力 MS である RMS-154「バーザム」を、反地球連邦政府組織「カラバ」及びアナハイム・エレクトロニクス社 (A.E.) が独自に改良・発展させた MS である。

「カラバ」そして「エウーゴ」にとって「バーザム」は敵対組織「ティターンズ」のフラッグシップ・マシンであり、本来なら “ 最大の敵 ” であるはずだった。

しかし U.C.0087 年 7 月に勃発した ニューギニア会戦 に於いて「ティターンズ」の主力基地であるニューギニア基地は陥落。

その際にニューギニア工廠で開発されていた「バーザム」のデータは「カラバ」を通じて A.E. に渡る事となった。

そして「バーザム」は第 2 世代 MS のリファレンス機として、A.E. 陣によって非常に高く評価されたのである。

またその直後、U.C.0087 年 11 月、「カラバ」/「エウーゴ」は ダカール演説 によって地球連邦政府の組織として追認された。

これにより「カラバ」/「エウーゴ」派によって【GM 計画】が推進される事となったが、計画は上記の理由で遅延、さらに「カラバ」/「エウーゴ」派の主力 MS であった MSA-003「ネモ」はコスト・パフォーマンスが悪いという問題を抱えていたため、高性能かつハイ・コスト・パフォーマンスを誇る「バーザム」を暫定的に運用する事が決定されたのである。

「カラバ」/「エウーゴ」による「バーザム」の実験運用(3)を経て、A.E. は同機をベースに進行中だった【GM 計画】の開発データをフィード・バックし、「GM」系とパーツの互換性を持たせた「バーザム」を完成させた。

当初は A.E. ナンバーである MSA-008 という形式番号を与えられていたが、「カラバ」/「エウーゴ」派 E.F.F. に制式採用された際に「GM」タイプであることを示す RGM-87 のナンバーが与えられた。

そして U.C.0087 年末期のみという極短期間、局地的運用ではあったが、E.F.F. の制式 MS として実戦配備されたのである。

U.C.0088 年代に入ると、「ジムIII」の実戦配備が本格的し、「バーザム」はあっという間に前線から姿を消していった。

故に実機の姿を目撃した者も非常に少なく、“ 幻の RGM ナンバー ” とも云うべき存在となってしまった。

その後「バーザム」は、一部の機体がスペース・コロニーの駐留軍等に配備されたとも云われているが、E.F.F.のMS開発記録から抹消されたという説もあり、その存在自体が非公式なものになりつつあるのが実情だ。

1) 同計画はU.C.0086年に立案されていたと考えられる

2) RMS-179「ジムII」は、ティターンズ独自の生産拠点「グリプス」で生産された機体である。既存のRGM-79「ジム」の改修機であるRGM-79Rに対し、RMS-179は完全に新規生産された機体であり、RGM-79Rよりも性能的に高い水準に達していた

3) その際、カラーリングは「ガンダム」タイプのトリコロール・カラーであったとも、オレンジとブラックのツートン・カラーであったとも云われている

備考

なお、「模型情報 1988 . 8/109」ではバーザム /MSA-008/RGM-87として記載されており、「エウゴ（カラバ仕様）として製作、後に連邦軍制式採用となる。」とされている。

上記初出時は「バーザム」のままであったが、後に「バーザム」に変更されている。

ただし、英語表記では初出時すでに「BR-GM」とされていた。

『ダブルフェイク』劇中では、アラハスの艦載機として3コマ登場している。

模型作例&背面画像について

画像は、ギムGさんが制作された模型です。

バーザムには、背面設定画が存在しないため、模型製作においては、製作者が独自の解釈でデザイン画を起こし、元の設定を製作なさいました福地仁氏にアドバイスをいただき修正したものを元に製作されています。(SDガンダムGジェネレーションを原作としています)

アドバイスをいただきました福地氏には、この場を借りて御礼申し上げます。

なお、デザインはこの作例独自のものであり、サンライズの公式設定ではありません。

また、画像公開にあたり、掲載許可をいただいたのは当サイト「MS-LEXICON-Wiki」と「GUNDAM WORLD ENCYCLOPEDIA」の2サイトのみとなっております。2次掲載はご遠慮頂きます様宜しくお願い致します。

スペック

項目	内容
全高	
頭頂高	
全長	
本体重量	
全備重量	
ジェネレーター出力	
スラスタ推力	
センサ有効半径	